






学部長	所属長	本部長	副本部長	室長
				

令和4年 3月 30日

理事長 殿
学 長 殿

令和3年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症
対策支援プロジェクト研究報告書

標記の件につきまして、別紙のとおり報告いたします。

また、本研究報告の内容は、近畿大学学術情報リポジトリ (KURepo) に公開する旨、承諾いたします。

1. カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 研究 <input type="checkbox"/> 開発・提案 /カテゴリーNo 4
2. 企画題目	COVID-19 感染症における予後に影響する炎症誘発性・収束性脂質メディエーターの同定

研究代表者

所 属 : _____ 医学部 救急医学教室

職・氏名 _____ 講師 濱口満英



令和3年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	COVID-19 感染症における予後に影響する炎症誘発性・収束性脂質メディエーターの同定
研究者所属・氏名	研究代表者：濱口満英 共同研究者：村尾佳則

1. 研究、開発・提案 目的及び内容

発熱を主訴とする患者には、COVID-19 感染症をはじめ、肺炎、胆嚢炎、腎盂腎炎、敗血症など様々であるが、急性炎症を来している状態である。重篤化を予測するため、予後に影響する炎症誘発性・収束性脂質メディエーターを同定することを目的とした。

2. 研究、開発・提案 経過及び成果

発熱を主訴とする患者には、COVID-19 感染症をはじめ、肺炎、胆嚢炎、腎盂腎炎、敗血症など様々であるが、急性炎症を来している状態である。
重篤化を予測するため、予後に影響する炎症誘発性・収束性脂質メディエーターを同定することが重要であると考え、当プロジェクトを計画した。
まず、“発熱を来す急性炎症疾患における予後に影響する炎症誘発性・収束性脂質メディエーターの同定”の研究計画書を作成し、院内倫理委員会に提出し承認を得た。
その後、ERにて発熱を主訴に救急来院された患者さんより症例を集めようと開始したが、COVID-19 感染症の急激な減少に伴い当院を受診される発熱患者さんが少なかったこと、医学部内におけるクラスターなどによりERでの救急受け入れ制限となったことから目標症例数を獲得するのは困難な状況となった。しかし、可能な限り症例を集め現在12症例の検体がある。
このサンプルより、COVID-19 ワクチン接種の有無や既往が病状に与える影響、アンジオテンシン変換酵素による炎症性サイトカインへの影響について解析を行うこととしている。
また、脂質メディエーターの一種であるアナンドマイド(AEA)の脂肪酸加水分解酵素(FAAH)が敗血症における予後予測に関連するバイオマーカーとしての有用性を示唆する結果を得ていることから、当サンプルにおいても解析を行い検討する。

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・提案 計画

予後に影響する炎症誘発性・収束性脂質メディエーターは、発熱を伴う疾患すべてに関連する
否か、また敗血症や敗血症性ショックと関連するのかなど、解析結果より今後の研究を計画する
方針である。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
日本救急医学会	口頭	2023年

5. 研究、開発・提案 課題の成果発表等

日本救急医学会はじめ、救急関連の学会にて口頭発表を行う。また、学術雑誌にて公表する予定
である。